

に、いやなこと、やりたくないこともやらなくてはいけなかった。でも、これからは一歩引いた形での働き方でいいのですから、やりたいことしかない、それでいいんです。

「フルタイムで働く」「企業に勤める」などの枠も外して、自由に考えましょう。

経験を活かして、自営業者として働くのもあります。3年くらいは種まきの時期と割り切つていけば、少しずつ仕事が入ってくるものです。

フルタイムで働くよりも、「仕事をしながら生活も楽しむ」というスタイルもいいものです。「夫婦で旅行する」「趣味の時間をたくさん持つ」など、自由に使える時間が増えるのですから。

身近なところでは、コンビニやスーパーで働くのもひとつの選択肢です。1日5時間働けば5000円程になるのですから、20日間働けば10万円。家計の赤字を補って、さらに貯金までできる額です。

主婦パワーを活かそう

今、日本では共働きのシニア夫婦が増えてきています。世界的にも珍しい流れです。妻が65歳以上の8世帯に1世帯が共働き(夫の職業が農林業のケースは省く)というデータがあります。こどもが大きくなり、少しでも蓄えを増やしたいなどの事情もあるかもしれません。どういう理由であつても、働きに出るのはいいことですよね。だって、1日中夫婦で顔を突き合わせていても退屈ですもの。「今日はこんなことがあつた」と夕食で話が盛り上がるほうがいいじゃないですか。

企業などで働いたことのない主婦であつても、スキルは必ずあります。料理、育児、コ



ミュニケーションなど、家庭で発揮してきたスキルが何かあるはず。「日本の主婦は、世界一すごい」と私は思います。香港やシンガポールなら中流家庭以上では、お手伝いさんが料理や掃除は当然のこと、子育てまでしてくれます。イタリアやフランスの主婦は自

国料理を作るだけですが、日本では、和食も洋食も中華も作ります。日本の女性の主婦力はすごいのです。でも、そのすごさに主婦自身が気づいていません。だからこそ、自治体が、主婦パワーをビジネスにつなげる仕組みや、地域貢献に活かせる仕組みを作ることが大切です。

シニアは宝

今の日本ほど、シニアにとってありがたい国はありません。働ける間は働いてほしい、と国を挙げて期待されている。年金ももらえる。医療制度も介

護保険制度も整っている。シニア向けのサービスもどんどん充実してきている。制度改正は必要ですが、こんなに恵まれた環境はそうそうありません。

20年程前までは、商品やサービス開発のための市場調査で「60歳以上の声」は聴いてもらえませんでした。「シニアマーケット」という言葉すらなく、当時は60歳以上をお客様と捉える感覚はなかったのです。ところが、今や、シニアこそ主たるお客様です。

「シニアは宝」と私は思います。「終わった人」などではありません。現役時代が一番搾りだとしたら、定年後は二番搾り。二番搾りだって十分に美味しいですよ。人によっては、三番搾りまであつてもいいくらいです。私自身も、年金を受け取りながら、シニアの活躍の後押しをするために講演や研修などにかける毎日です。ぜひ一緒に、シニアパワーで地域に貢献しながら、年金兼業生活を十分に味わい尽くしましょう。